



## GIGAスクール構想 第2期 始動

学習用端末の導入から5年が経過し、令和7年11月に市立小中学校の児童生徒へ新しい学習用端末を導入しました。文部科学省の基準に基づき、小学校1年生からケース一体型キーボードを使用してタイピング技能の習得を推進するとともに、デジタル教材への書き込みに対応するためタッチペンを貸与しています。

GIGAスクール構想とは、1人1台端末や高速大容量の通信ネットワーク等の学校ICT環境を整備・活用することによって、教育の質を向上させ、全ての子ども達の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することを目的とした国の教育政策です。

GIGA：Global and Innovation Gateway for ALLの略



第1期では、iPadに触れてみることから始まり、コロナ禍における臨時休校によるリモート授業の開始を契機に活用がさらに進みました。一人ひとりがGoogleアカウントを持ち、協働学習やオンライン学習のほか、連絡ツールとしての利用も定着しました。

第2期では、デジタル教科書・教材の活用、国内外とのオンライン交流、学習データの活用による個別最適な学びや、生成AIの活用による創造性を育む学びに取り組むことで、ICTを活用した教育のさらなる質の向上を目指します。

いつでもどこでも通信ができるようにするため、セルラーモデルのiPadを配備し、5G通信にも対応しています。

教員にも児童生徒と同じiPadを貸与し、指導者用デジタル教科書・教材の活用をしています。また、各教室には短焦点プロジェクターを整備し、学習用端末の画面を即時に投影できる環境を整え、考えの共有や話し合いを深めています。

第1期に活用したiPadは適切に初期化した上で売却し、新しい学習用端末を導入するための収入源とします。また、一部のiPadは市役所の業務にも活用します。



学習用端末を利用する際には、稲城市独自の活用ルールを定めています。

- 利用時間の制限
- 学習目的以外には使用はしない
- 写真を撮る時には許可をとる
- パスワードは自分で管理する
- データは指定場所に保存する 等

稲城市のGIGAスクールに関する情報はこちら



▷問合せ 指導課指導係

## 小中学生英語スピーチコンテスト

12月13日(土)、地域振興プラザにて「小中学生英語スピーチコンテスト」を開催しました。本事業は、稲城市グローバルスタディプログラムの一環として、英語による表現力やコミュニケーション力、国際的視野の育成を目的に行っており、今年度からは教育委員会主催で東京稲城ロータリークラブに共催いただきながら開催しました。

小学校5・6年生21名、中学生39名、計60名が参加し、自分の思いや考えを英語で発表しました。原稿は児童・生徒自身が作成しました。

審査は、東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授の岡田 昭人氏を審査委員長とし、株式会社アチーブゴール法人マネジメント部長の佐野綾佳氏、東京外国語大学大学院生のオコナ・パメラ氏、ナラング・サクシ氏、マリーナ・ハピーブ氏

のほか、市立小・中学校の教員に審査員を務めていただきました。

さらに、「国連を支える世界こども未来会議 FUTURE SUMMIT みらい総会(大阪・関西万博)」に参加した中学校1年生の荒木 佑心さん、麻生友奏さん、高波 泉さんによる発表も行われました。

取組を振り返る中で、「とても緊張したが楽しかった」「練習した通り話せて自信になった」といった声が寄せられ、努力の成果を実感した様子がうかがえました。

自分の考えを英語で発信する経験は、他者と協働し、よりよい社会を考える力につながります。この経験を糧に、英語の学習をはじめ、さまざまなことに挑戦し、今後の学びや成長に生かしていったほしいと願っています。

### 表彰者

#### 小学生の部

##### 最優秀賞

向陽台小学校 6年生 三木 陽道さん

##### 優秀賞

稲城第七小学校 5年生 佐藤 駿さん

若葉台小学校 5年生 高 瑛駿さん

#### 中学生の部

##### 最優秀賞

稲城第六中学校 2年生 大林 愛由梨さん

##### 優秀賞

稲城第二中学校 2年生 太田 弓子さん

稲城第二中学校 2年生 渡辺 樹さん

稲城第四中学校 2年生 八巻 太智さん

稲城第五中学校 2年生 五十嵐 優羽さん

稲城第六中学校 2年生 竹内 志織さん

▷問合せ 指導課指導係